

大学院特別講義

# 新潟脳神経研究会特別例会の御案内

日時：平成28年11月24日（木）18:00～19:00

場所：脳研究所 1F 検討会室

## 統合失調症の病態生理の研究 から「心」の病理へのアプローチ

中沢 一俊 先生

アラバマ大学医学部精神科・  
行動神経生物学部門

統合失調症の NMDA 受容体機能低下仮説は、NMDA 受容体阻害剤の投与で幻覚妄想や認知障害など統合失調症に酷似した症状を誘発することから現在最も信頼できる病態仮説である。我々は NMDA 受容体機能低下が皮質の GABA 細胞で起きる可能性を GABA 細胞で GluN1 を生後早期に欠失させた変異マウスを作製して検証してきた。動物行動のみならず統合失調症に見られる酸化ストレスの亢進、音誘起性ガンマ波の異常、ドパミンの放出異常が GluN1 変異動物でも見られた。また最近、皮質聴覚野で音刺激後に転写因子 Arc の発現が野生型マウス脳内より長く持続亢進することを見出し、セロトニン受容体の異常と合わせて紹介したい。

どうぞ奮ってご参加ください。

（担当：分子神経生物学分野）  
新潟脳神経研究会幹事代表：那波宏之